

# 26年8月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成26年 7月20日～ 26年8月10日

## 2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
8月分の回答企業数は5社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
入荷動向	国産材	△ 10.0	0.0	0.0
	外材	△ 87.5	△ 62.5	△ 62.5
在庫動向	国産材	30.0	10.0	10.0
	外材	12.5	△ 12.5	△ 25.0

国産材ラミナの入荷は、8月の減少が9月、10月は横ばいに、外材ラミナは3ヵ月連続の大きな減少に。

国産材ラミナの在庫は、3ヵ月連続の増加、外材ラミナは8月の増加が9月、10月には減少へ。

### (2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/8月	9月	10月
国産材	△ 10.0	0.0	△ 10.0
欧州材	△ 25.0	△ 25.0	△ 37.5
その他	—	—	—

国産材ラミナ購入価格は、8月の弱保合が9月、10月は横ばいに、欧州材は3ヵ月連続して弱保合。

## モニターからのコメント

### (ラミナ荷動き)

・入荷動向は、スギは原木価格も弱含んでいるため、入荷量は確保しやすい。カラマツは前月同様入荷量は安定している。スギのラミナ在庫は前月とほぼ同様の在庫量、カラマツは前月より増えている。

・低価格帯の製品売りが先行しているため、弊社では国産材の仕入れはやや増加傾向となるが、高価格帯の米ヒバ外材仕入れは減少傾向となる。国産材の動きはそこそこに回復の兆しが見られ、在庫も横ばい状態となる見込みだが、米ヒバ外材のラミナ在庫はいったん適量まで減少させねばならない状況にある。

・在庫余剰のため仕入抑制。

・特になし(通堂どおり)

### (ラミナ価格動向)

・スギ原木・製品ともに弱含んでいるため、ラミナ価格も下落。カラマツは岩手・北海道産とも高値水準で止まっている。

・原材料については底値を過ぎた。季節的にも不足感からくるジリ高傾向を見せるものの製品販売価格は上がり横ばい状態が続くとみている。

・仕入抑制実施により実勢価格は不明、市場購入価格は、“やや下落”で推移していると思う。

・WW、RWともに下落傾向、それにつれて国産ラミナも下がり傾向。

## 26年8月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

## (3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
生産動向	国産材	△ 40.0	0.0	0.0
	WW集成管柱	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	RW集成平角	△ 66.7	△ 33.3	△ 50.0
	米マツ集成平角	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 50.0	△ 12.5	△ 25.0
	WW集成管柱	△ 75.0	△ 50.0	△ 50.0
	RW集成平角	△ 50.0	△ 33.3	△ 50.0
	米マツ集成平角	△ 75.0	△ 50.0	△ 50.0
	WW集成平角	0.0	△ 50.0	0.0

国産材集成材の生産は、8月の減少の後、9月、10月は横ばいに、国産材以外の集成材の生産は全て3ヵ月連続して大きな減少。

集成材の出荷は、3ヵ月連続して大巾な減少。

## (4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/8月	9月	10月
スギ集成管柱	△ 16.7	0.0	△ 16.7
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	△ 16.7	0.0	0.0
WW集成管柱	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
RW集成平角	△ 16.7	△ 16.7	0.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	△ 16.7	0.0	0.0
カラマツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0

スギ集成管柱は8月の弱保合が9月の横ばいを経て10月には再び弱保合に。

ヒノキ集成柱、集成土台、WW集成管柱及び米マツ集成平角は3月連続で横ばいで推移。

カラマツ集成土台、米ヒバ土台角及びカラマツ集成平角は8月の弱保合が9月、10月は横ばいに。

WW集成管柱は3ヶ月連続で横ばい。

RW集成平角は8月、9月の弱保合が、10月には横ばいに。

## モニターからのコメント

## (構造用集成材荷動き)

・国産材構造用の生産動向は ラミナは引き続き潤沢なため、生産できる状況であるが、製品需要が依然低迷しており増産分の販売が見込めない。従って、需要に見合った生産量に留まっている。出荷は一般物件の低迷により、依然として荷動きが低迷。価格面から樹種転換の動きも見られる。9月以降は地域住宅型ブランド化事業の物件も出てくる予定で、徐々に荷動きは回復基調も、大幅な需要増加は見込めない。

・昨年末から年始の高い在庫をかかえ安い単価での荷動きが顕著である。ただし、徐々に年末に向けて需要は高まると思われる。

・工場レイアウト変更のため9月期より生産調整予定。

・変化なし

## (構造用集成材出荷価格動向)

・スギ集成管柱は、需要の低迷と製品の供給量増加に伴い、余剰感が強まっており、需給バランスからも価格も弱含み傾向、当面状況変わらず、更に値段は下がると見込む。カラマツは、競合製品の弱含みが影響し、部材により連れ安傾向、ラミナの価格も下がらず採算はなお悪化、今後、製品価格の反転は期待できない。

・ヒノキ集成(柱)(土台)の価格はピーク時よりは若干安くなっているものの、ほぼ現状維持で推移すると思われる。米ヒバ集成(土台角)は、他樹種の価格が安いため、多少の値下げもやむなしと思われるが、ラミナ価格は高いため出来る限り現状価格を維持したい。

・少し値下がり傾向(全体)。